



終始、楽しい話をしてくれた親夫さんとシヨリさん夫婦

五十数軒の家々が寄り添うように建ち並ぶ杉堂地区。その中央を流れるのは布田川です。潮井水源からの恩恵も受けている布田川はやがて木山川と合流し、昔から田畑を潤してきました。後迫橋の下を流れる布田川の風景はどこか懐かしく、心を和ませる趣があります。

今年、結婚生活50周年を迎えられたお二人。なれ初めは知人の紹介だったそうです。「なんさま『運転免許を持つてゐる女性がおる』て聞いたとが決め手でした」と照れ笑いを浮かべる親夫さん。「本当は、シヨリさんの笑顔に引かれて一目ぼれだったんじゃないですか？」と尋ねると「そぎゃんなら、そぎゃんでよかたい」と顔をくしゃくしゃにして笑います。

サツマイモの出荷用のパッケージに貼られたシールには、「ちかちゃん&しをりちゃん」と刻まれています。その愛らしいネーミングからも、半世紀を共に歩んできた夫婦ならではの仲の良さと、温かな人柄が伝わってきます。

後迫橋の風情に 心とんで



布田川にかかる後迫橋

杉堂は、日本の女子教育に尽力した矢嶋椋子の故里です。矢嶋家ゆかりの屋敷跡（森川恭一さん宅）の入り口には説明板が設置されており、矢嶋家の血を引く明治時代のジャーナリスト・徳富蘇峰が誕生した場所としても紹介されています。



かつての矢嶋家がかった場所。現在は森川邸。入り口には、そのことを伝える案内板が立てられています

植物を愛して これからの夢

山野草や樹木が丁寧に手入れされた、風情ある庭を見つけました。庭の主は西村誠志さん。こちらにも先述の西村さんと同じ姓で、杉堂集落に多い「西村」姓のお一人のようです。「杉堂には西村と並んで多いのが森川さん。だけん、みんな名字ではなく、名前で呼び合うことが多い」と話します。

そんな誠志さん宅の玄関先には、秋の七草の一つのフジバカマが育っています。フジバカマは「海を渡る旅するチョウ」として知られる、アサギマダラが好んで集まる植物です。「昨年アサギマダラが来てくれて『待ったよ』と声かけながら労をねぎらいました」と誠志さんはうれしそうに、スマートフォンで撮影した画像を見せてくれました。



上／フジバカマの花が咲く頃 アサギマダラがやってきます。
下／誠志さんが撮影した昨年のアサギマダラ



vol.62
すぎどう
杉堂

バッチリと暑さ対策も万全に、水分も十分に取らない夏の散歩。今回は町の東の果て、山あいに広がる杉堂集落を訪れました。ここでも、楽しく温かい出会いが待っていました。

その矢嶋家跡地の前を流れる布田川は、今も変わらぬせせらぎを響かせています。この地で暮らした人々の歴史や当時の面影を、静かに伝えているかのようです。



潮井自然公園内には、矢嶋椋子たちきょうだいの生涯を紹介する「四賢婦人記念館」(右)と遊具が設置されています

ちかちゃん & しをりちゃん

布田川沿いでサツマイモ農家を営む西村親夫さんとシヨリさん夫婦に出会いました。ちょうどサツマイモの出荷を終えたばかりの二人は、エアコンの効いた作業場に快く招き入れてくれ、楽しい話を聞かせてくれました。

「この辺りはサツマイモ農家が多くてね。昔は葉たばこや養蚕を営む家が多かったよ。私たちも以前はナスビ栽培しよったばってん、今はサツマイモが中心。地震後、次男が『後を継ぐ』て言うてくれてね」そう話す親夫さんの笑顔には、農業への誇りと未来への希望がにじみ



「ちかちゃん&しをりちゃん」のシールが目立ちます

マメちゃん パパが大好き

潮井自然公園へと向かう途中、かわいらしい柴犬のマメちゃん(7歳・男の子)のお散歩に出会いました。リードを引いていたのは、マメちゃんのママ・大西美紀さん。「朝と夕方の1日2回、お散歩しています。夕方はパパが担当です。マメちゃんはパパが大好きで、帰ってくる時間になるとソワソワしながら待っているんです」と大西さんは目を細めます。

大西さんご家族が、夫の実家がある杉堂へ移り住んだのは10年ほど前。「自然豊かで暮らしやすいところですよ。布田川も天気によって表情が変わるんですよ。晴れた日は透き通るように穏やかですが、雨が降ると濁流となり、自然の力強さを感じます」と大西さん。

立ち話をしている間も、マメちゃんは終始お利口に待っていてくれ、その愛らしい姿に思わず笑みがこぼれました。



朝夕の散歩を欠かさない大西さんとマメちゃん